

<シナリオ 前半>

●プロローグ

A校デザイン学科映像デザインコースの田嶋先生は、学生に社会のニーズを理解させ、社会の課題を解決できるような人材育成のために外部連携窓口の担当者として勤務している。学生には、専門職としての知識とスキルを身に着けることはもちろん、社会で活躍できる人材になるために、社会人としての素養も身に着けてほしいとの思いから、学年など発達段階に合わせたスキル獲得や資質能力育成ができるような取組みを職業実践専門課程のカリキュラムに組み込もうとしている。

●ディプロマポリシー

映像デザインコースでは、多様なメディアに対して、独創的なメディアコンテンツを創造する人材の養成に加えて、メディア技術やコンテンツビジネスを理解し、広く社会で活躍できるように、以下の能力を身につけることとする。

- ①映像制作における幅広い知識と技術力
- ②知識と技術力を活用した企画力
- ③企画を実現させるための制作力
- ④映像制作における独創的な表現力
- ⑤地域や社会の課題を、映像を活かして解決することができる問題発見力及び思考力
- ⑥他者と協調・協働でき、的確な意思疎通を図るコミュニケーション能力

●活動開始前

ある日、地域の企業からPR動画の制作について、依頼があった。この案件は企業側のニーズを踏まえると2年生前期の学生が十分に対応できるものであると考え、2年生前期の職業実践専門課程認定学科の該当コース（以後、コース）での新たな取り組みを考えた。具体的な導入にむけて、田嶋先生はまず企業の担当者と打ち合わせの機会をもち、企業の意向を詳しくヒアリングするとともに、学生にとっての社会とつながる学び機会であることや学校のディプロマポリシーを示し、職業実践専門課程認定学科だからこそ、学生が学ぶべき内容やめざす成果物のクオリティについて、企業の方にも明確に伝えた。企業側とプログラムにおける学習目標を確認し合意も得て授業としての実践を開始することになった。

●最初のコンペ（個人での映像企画）

2年生前期では、それまでに校内や授業内で培った企画力を、外部に向けて発揮する初めての機会になるため、企画は個人制作し、学年内のコンペを行うことにした。

コンペを前に、企業側の担当者とは評価の観点を整理し、評価項目（評価規準）とその項目に対する評価基準をループリックの形式で共通理解できるようにし、そのループリックは学生にとっての学習目標として共有することとした。

同様に、チームでの共同作業においては、成果物の評価だけではなく、活動を評価するためのループリックを使用。田嶋先生が評価項目と評価基準を設定し、各チーム、各学生個人に対して評価ができるよう準備している。そのループリックについても、学生に提示され、さらに学生側が「ここをがんばりたい」と思う評価項目を選び、特に評価してほしい項目とし

て意思表示ができるようにしている。ディプロマポリシーの内容を網羅できるように設定している評価項目となっており、評価基準はそれらが段階別で評価できるように設定している。

学生が授業で企画を作っていくにあたり、企業側の担当者が依頼したい映像制作についての説明を学生に向けて行った。その説明会では、質疑応答も含めて、企業側のニーズをヒアリングする機会として設定した。

学生の人数が30名であるため、まずは前述のとおり、学内でのコンペを行う。ここでは、学校代表として企業側に提案するための5つの企画を選出する。学生たちにもループリックで採点をさせ、代表の5つの企画を選定した。

●制作活動

5つの企画書に対して、6名のグループで映像制作を行うようにして、そのチームの中での役割分担を行った。

制作進行も含めて学生に任せる形で進行させ、田嶋先生は学生の相談にのり、滞りなく進行できているかの統括的役割を担い、コースの中で学生の様子を見ながら協働ができるようフォローをした。制作進行中、定期的に進捗状況を報告する会を行っており、その中でお互いの進捗はある程度わかるようにして、他チームの進行と自身のチームの進行の比較ができるようにした。

●次のコンペ（グループでの映像）

コンペの日程は事前に企業担当者を決めておき、そこで選ばれた映像についてはその後は修正、納品まで1本に絞り込まれることとなる。コンペ当日は、企業担当者とともに企業側で設定した審査員も同席するようにした。また、学校側の審査員として田嶋先生と学科長、部長にも出席を依頼し、学生への評価をしていただいた。各チームプレゼン後にチーム向けに企業側、学校側の審査員から評価コメントをいただき、社会で通用するクオリティにするには、という視点で、具体的に改善点を指摘してもらった。最終的に審査員による審査で納品へ進む1本を選定した。

●納品（コンペ）後

コンペでいただいたコメントと、改善点の指摘から、その後の自身の学びやスキルアップにつながるよう、全員共通のふりかえりアンケートをもって、今後、成長のために何にチャレンジしたいかを言語化した。最終的に選ばれて納品された動画については、学校のwebサイトにも掲載され、学生たちは自分たちが制作した企画や動画をポートフォリオとして使うことができるようにしている。

プログラム全体、産学連携の価値についてのふりかえりは、学生のアンケートとは別に、企業側の担当者、学校側の関係者でふりかえりの会議をもち、今年度の当初計画（ねらい）などが達成できたか、次年度に向けて改善点はないかなど、話し合いを行い、活動を終了した。活動報告については、学科のwebサイトに掲載している。